

令和元年度 伊那北高等学校 評価表

教育目標					中・長期的目標				
1 平和を希求し、真理と正義を探究する資質を養う。 2 躍如として学業にいそむ。 3 自主・自立の精神を養い、個性の伸長をはかる。 4 自由と責任を重んじ、努力を惜しまない態度を養う。					1 学習・部活動などに主体的に取り組み、将来を自ら切り拓く力をもった生徒の育成をめざす。 2 地域の実情、要望を正しく理解し、伊那北高校の将来を見据えて施設・設備を含めたビジョンを明らかにする。				
					重点目標				
					1 「いじめ・体罰」のない安心安全な教育環境を整え、一人一人が輝く学校にする。 2 チームとして「主体的、対話的で深い学び」を実現する授業と教育課程の改善を進める。 3 「社会に開かれた教育課程づくり」を目指し、外部社会との連携を図る。				
領域	対象	重点目標	評価項目	評価の観点	具体的方法	評価の主な材料	成果と課題	改善策・向上策	校関係分掌
教育活動	進路・学習に関わる指導	23	の進路形成意識	生徒自ら課題を見つけ積極的に取り組み、進路に対する意識を高めることができたか。	・総合的な学習（探究）の時間において、生徒が自ら課題を見つけ活動し、発信する取組みが行えるようにする。 ・体験活動、模擬授業への積極的取組みを促す。	ア生徒ノート	今年度より実施した総合的な探究の時間では、上伊那広域連合と連携をしながら、充実した学習活動を展開することができた。自ら課題を見つけ探究活動を行い、年度末には課題研究発表会を実施した。	総合的な探究の時間については、来年度授業時間内に1コマ組み込むことになった。その他、過渡期による混乱等も予想されるが、創意工夫をしながら充実した学習活動が展開できるようにしていく。	進路学習指導会
		2	進路実現	進路指導計画を作成し、生徒・保護者の納得できる進路指導ができたか。	・生徒・保護者との連携を深め、生徒が自己の進路志望を明確にできるようにする。 ・第一志望の進路実現に向けての計画を作り実現できるようにする。 ・定期考査や外部模試等の結果を分析し、課題を共有する。	・生徒保護者満足率アンケート（満足度）	・面接週間をはじめとして、通常生活の中で適宜面接相談を実施した。個々の生徒の実情に合わせた指導ができた。 ・全職員での指導を基本とし、小論文・面接等の指導がなされた。 ・模試結果について、職員全体でデータを共有できるような体制にし、授業や補習に活かし学力をつけさせるように活かした。	・生徒の実態をよく見極め、実情にあった指導をしていく。また各行事の目的・意義を明確にしながら実行するようにしていきたい。 ・個々の生徒に対し職員全体で指導に当たる体制を維持していきたい。 ・模試の事後指導を継続していく。 ・新入試に対して情報収集を行い、対応できるようにしていく。	進路指導
		2	授業改善	・授業評価や学力分析を通して授業改善を行うことができたか。 ・解りやすく学習意欲を高める授業の工夫ができたか。	・校内外に向けて授業を公開するなどして研修を行う。 ・授業評価の結果得られた課題を明らかにして、改善に活かす。 ・ICTを活用した授業改善の工夫をする。	授業評価	・キャリアアップ研修、土曜公開授業の他、互見授業を2回（春・秋）実施するなど、授業改善に向けた取組を行った。 ・例年同様「匿名性を担保した授業評価」を実施した。集計結果は各職員・各教科で共有し、考察・検討を行い、より改善された授業になるよう努めている。 ・RESAS事業で各HR教室等に導入された電子黒板は、昨年以上に職員の間に浸透し、様々な場面で活用が進んだ。また、タブレット等を活用しながら生徒が学習活動を進める場面も見られた。	・互見授業の充実を図ると共に、新学習指導要領の主旨に基づいた授業改善・授業作りを進めていきたい。 ・引き続き授業評価を行っていくが、そのよりよい在り方を模索していく。 ・ICTの有効な活用についてさらに研究を進めていきたい。	学習指導情報
		2	家庭学習指導	授業を中心にすえた家庭学習が行える生活習慣を定着させることができたか。	・予習復習や課題への取組みについて点検し、個人面談などをとおして適切な指導を行う。 ・「学習時間調査」を実施し、生徒の生活実態を把握し、家庭学習の充実を図る。	学習時間調査	・各教科で予習・復習や課題の取組についての点検を行い、適切な指導を行った。また、例年同様、全生徒対象に5月、10月の年2回、家庭学習時間及び生活記録調査を実施し、実態把握を行った。年間行事予定に4回の面談・懇談期間を設け、学習態勢への指導や相談等を適切に行った。 ・学習時間調査の方法や集計については、生徒自身が電子媒体を用いて入力するように変更し、作業効率及び集計精度の向上を図った。	・今後も学習時間調査や面談を実施し、生徒の生活習慣の実態把握に努めるとともに、きめ細かな指導を継続していく。 ・今後も学習時間調査を実施していく。	学習指導
		2	読書指導	・読書活動を活発にすることができたか。 ・主体的・自発的な学習を支えることができたか。	・LHRを利用した「読書の時間」を実施する。 ・読書の楽しさや意義を共有するため、本と情報を提供する。 ・授業・探究学習・課題研究・クラブ活動等との連携を深める。	図書・貸出数	・一人平均貸し出し冊数は2.9冊と減少した。図書館利用者数が例年並みであることから、原因を探ってきたい。 ・第2図書館の貸し出し数も伸び悩んだ。 ・ビブリオバトルや語り部企画、その他諸企画を行った。企画は例年に増して行ったが、貸し出し数の増加につながらなかった。 ・同窓会と連携し那須弘平先生との座談会を企画し、生徒が運営できた。 ・国語科・保健体育科・家庭科等で授業、調べ学習での利用が見られた。	・引き続き広報、PR活動の充実を図りたい。また、来館生徒への声かけ、呼びかけで利用の輪を広げたい。 ・探究関係の資料を第2図書館に設置した。次年度も継続したい。 ・移動図書館等、新たな取組を企画している。貸し出し冊数増加に繋げたい。	学図書指導
	学校生活に関わる指導	1	援生徒体制の充実・教育支援	関係職員・スクールカウンセラー・家庭が連絡を密にとり、生徒それぞれの状況に応じた、適切な指導を行うことができたか。	・小規模の会議から職員会まで、臨機応変に情報交換会を設定し、生徒の状況を共有する。 ・スクールカウンセラーや外部機関との連携を図る。 ・職員研修会を通じて、職員の知識・理解を深める。		・学年や担任、養護教諭などからの要請により、適切に情報交換会、ケース会議等を開催することができた。 ・スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーなど、外部機関との連携を図ることができた。 ・職員研修会をその後の教育活動にどう生かしていくのが課題である。	・本校でも、充実した特別支援教育を行う必要があると、全職員がより自覚を高める必要がある。 ・支援が必要な生徒により充実した対応をするために、人員の確保が必要である。	推特生徒進別徒委支相員援談会教育
		1	安全生徒健康管理	学校生活における生徒の安全管理について徹底ができたか。	・学校行事を運営する際の安全面での事前チェック（アレルギー表示等）と生徒の指導及び当日の危機対応に取り組む。 ・交通安全及び盗難予防指導の実施と充実を図る。 ・年3回のアンケートと面接週間において実態の把握に努める。		・昨年度同様、ペン祭の出店における食材のアレルギー物質の含有表示を徹底できたことにより問題は起こらなかった。 ・ペン祭のグラウンド、小体育館でのイベントにおける怪我防止対策はしたが、怪我が出てしまった。 ・アンケートを実施し、面談週間での指導に活用できた。 ・昨年と比べ、交通事故件数は減少した。登下校時における送迎の問題は、継続して取り組むべき課題である。	・来年度は、より安全性を高められるよう工夫し、周知徹底したい。 ・設備の安全性を高めるとともに、注意喚起を呼びかけるなど全体の意識を高めたい。 ・生活アンケートについては、生徒の状況を把握できる部分があるので、継続して実施したい。 ・職員、興風委員会による立ち番の実施を検討する。	生生活徒校指会保導健
		1	校環境内外への配慮と美化	「エコマネジメント長野」に基づき、ごみの減量と校舎内外の美化などを推進することができたか。	・ごみの分別、減量に努める。 ・日常の清掃の徹底と点検を行う。 ・部室周辺及びトイレ清掃を徹底する。 ・教科ごとに実施している環境教育の体系化を努める。 ・電気・水道使用量の節減に努める。	評価エコマネジメントの把握	・日常の清掃活動状況は概ね良好である。今年は部室移動を行う年だったため、生徒会とも協力し部室の清掃、美化に努めた。学習環境整備への意識は向上しているが、不燃系ゴミの減量についてはまだ課題が残る。 ・校外美化活動は今年2回行った。伊那北駅周辺から学校近隣の通学路の美化活動を通して、地域社会との共生意識を高めることができた。	・ゴミの分別と減量に向けて、環境教育の視点も取り入れ、ゴミ処理及びゴミ減量に向けた広報活動を引き続き充実させたい。 ・校外美化は活動日だけでなく常に意識させ、普段の登下校時などの日常的な美化意識と地域共生意識の向上につなげていきたい。	エコ校掃衛生エコ推進委員会担当
学校運営	地域との連携	3	への中学校情報提供	中学生及び保護者、地域の方々に本校の教育活動について理解を深めてもらうことができたか。	・土曜授業公開、入学者選抜説明会（保護者向け）、中学生体験入学を実施する。 ・中学校訪問の実施、視察の受け入れ、中学生向け進路講話への対応を積極的に行う。 ・HPに学校のさまざまな情報が掲載されていることを周知するとともに、HPや一斉メール配信等により随時情報を発信する。	来校者数	・土曜授業公開日の来校者数が例年に比べ大幅に増加した。 ・入学者選抜説明会は計画通りにスムーズに実施することができた。 ・体験入学を本年度より平日開催としたが、受入体制（職員・生徒とも）に余裕ができ問題なく実施することができた。 ・中学校訪問、中学校の保護者の学校視察受け入れ、中学生向け進路講話については、中学校側の要望等を伺いながら予定通り実施することができた。 ・HP上での学校紹介、クロスベンフオフレターの地域への配布等により情報を随時発信することができた。	・土曜授業公開、入学者説明会については来年度も滞りなく実施できるように準備を進める。 ・体験入学については、日程面で受付時間に余裕を持たせることにより、中学生の時間的負担を軽減できるよう工夫する。 ・HPの有効活用を更に進め、内容の随時更新に心がけ、多くの情報発信に努めていきたい。	教務
	学校ビジョン	23	学校ビジョンの検討	・これからの地域の実情に基づいた、学校ビジョンについて検討することができたか。 ・大学入学共通テストや学びの基礎診断の実施に向けて、対応できる教育課程の検討がなされたか。	・あらゆる進路に対応した新しい教育課程の検討を行う。 ・今後の少子化の動向や、大学入学共通テストや学びの基礎診断への対応などを踏まえ、アンケート等を取るなど広い視点から多くの意見を取り入れ、合意形成に向け議論を行う。 ・大学入学共通テストの実施に向けて、情報収集や研究を進める。	将来像検討研修会での意見集約	・今後の少子化の動向、「学びの改革」、学科改編を睨んだ本校の将来像についての研修会を3回開催し、「3つの方針」の策定、学科改編の方向性について職員が意見を交換をする機会を設けることができた。 ・大学入学共通テストで求められる、「思考力・判断力・表現力」を高めるために、総合的な探究の時間と、理数科課題研究の時間の充実を目的に、これらの時間を時間割内に組み込む変更を行った。	・今年度までに行った研修会での職員の意見を参考に、委員会でも明確な将来像を考え、モデルプランを示し、たたき台として話し合いをしていく。 ・全国の主要な進学校の教育課程を、可能な限り収集して研究した。	教ビ青課ン委員会
	組織運営	123	学校評価	・学校評価システムが機能し、課題が克服されたか。	・PTA、HP等を通じて学校の重点目標や評価項目について説明を行う。 ・学校評議委員会、学校関係者評価などを通じて評価システムの改善を図る。	学校関係者へのアンケート	・引き続き、生徒、保護者、学校評議員対象の「匿名性を担保した学校評価」を実施することができた。 ・学校評議員の方々から、様々なご意見、提言をお聞きすることができた。	・保護者や学校評議員の方々からいただいた評価について、改善すべき点等検討を加えフィードバックしていくことにより、本校の教育活動の向上へと繋げていきたい。また評価内容及び項目については、その改善・実現に向け全職員で検討していく。	学校評価委員会